

行政視察報告書

令和7年 2 月 5 日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員

岩川 信子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 「恵風会・行政視察」
2. 視察期間 令和7年1月30日（木）～1月31日（金）
3. 視察場所及び目的
 - ① 東京都台東区役所
台東区北部地域におけるリノベーション型まちづくり事業について
 - ② 東京都千代田区厚労省医政局地域医療計画課地域医療構想推進室
長浜市の病院再編と地域医療の未来～厚生労働省の見解を踏まえた考察～について
 - ③ 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
異なる自治体間の病院統合の事例について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

- ① 台東区北部地域におけるリノベーション型まちづくりの具体的な施策や成功事例を学び、既存の建物やインフラを活かした地域生活の手法を理解すること。また、行政と民間の連携方法や、住民の参加を促す仕組みについての知見を得ることを目的とする。
- ② 長浜市における病院再編の背景やプロセス、地域医療構想との整合性について厚生労働省の見解を踏まえて学ぶこと。地域の医療ニーズに対応するための再編のポイントや、持続可能な医療提供体制の構築に向けた施策について理解を深めることを目的とする。

長 浜 市 議 会

③ 異なる自治体間での病院統合の具体的な経緯や課題、統合後の医療提供体の変化について学ぶこと。統合により運営の効率化、医療サービスの向上、財政負担の軽減などのメリットと、調整過程で発生した課題への対応策についての知見を得ることを目的とする。

・ 視察内容

1. 台東区北部地域におけるリノベーション型まちづくり事業では、台東区北部地域における空き家・空き店舗の活用を通じた地域活性化の取組みに関するものでした。

戦後から高度経済成長期にかけて、労働需要の増加とともに発展したこの地域は、簡易宿所や皮革産業の町工場が集積し、職住近接の街として栄えてきました。しかし、産業構造の変化により、空き家・空き店舗の増加や商売店舗数の減少による活力低下が懸念され、そこで、空き家・空き店舗を活用したリノベーションの手法を導入し、・地域産業の振興・商店街の活性化・飲食店など生活利便施設の誘導をすすめることで、
た地域特性を活かしなが
スタープランに掲げる
住み働き続けられる便利
を目指す、という取り組み



歴史・文化といっ
ら、都市計画マ
「人々が共生し
なまち」の実現
でした。



服部 征夫区長を訪問（区長は中央）



台東区議員さんとの写真

2. 厚生労働省は、令和6年12月18日に「新たな地域医療構想に関するまとめ」を発表し、2040年頃を見据えた地域の医療体制の再構築を推進している。この構想は、85歳以上の高齢者の増加や生産年齢人口の減少といった社会構造の変化に対応し、全ての地域・世代の患者が適切な医療・介護が受けられる体制の構築を目指している。

長浜市においても、高齢化の進行に伴い、医療・介護需要の増加が顕著であり、医療従事者の確保が課題となっている。そのため、医療提供体制の効率化と強化が求められ、急性期・回復期・慢性期医療の機能分化と適正配置は必要とされている。

厚生労働省は、地域の医療ニーズに即した病院機能の最適化を重視し、急性期医療の維持と、在宅医療・介護との連携強化、回復期・慢性期医療の充実による地域完結型の医療を推進している。

今回の視察を通じて、長浜市としては、厚生労働省の方針を踏まえ、地域の特性や住民ニーズを考慮した医療体制の整備を進める必要があることを改めて認識した。

3. 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センターは、静岡県掛川市と袋井市が共同で運営する公立病院であり、異なる自治体間での病院統合の成功事例の一つです。従来、掛川市立総合病院（450床）と袋井市立袋井市民病院（400床）がそれぞれ独立して運営されていたが、医療従事者の確保や設備投資の効率化が課題となり、また、高度急性期医療の提供や医療機能の集約による効率化が求められ、高齢化の進行により、持続可能な医療体制の確立が必要となった



病院の統合プロセスとして、

2007 年：掛川市・袋井市が病院統合の検討を開始。

2010 年：病院企業団を設立し、両市の協力体制を構築。

2013 年：中東遠総合医療センターが開院し、2 つの病院が統合。

この間時間をかけて行っているのがよくわかる。統合の過程では、住民の不安職員の雇用調整など多くの課題が生じ、自治体間の協議を重ね、統合後の医療提供体制を明確にし、住民説明会を積極的に実施されていて、合意形成に向けて努力されてこられている。

統合のポイントとして、病院企業団方式を採用し、両市が共同出資し、一つの法人として病院を運営している。

統合の成果として、医師数が大幅に増え医療の質が格段に向上し、断わらない救急が実現！病院経営力が想定を超えて向上！災害医療拠点が確立し防災力が強化された。

さらに、地域がん診療連携拠点病院としても指定されていて、地域住民が安心して医療を受けられる体制を整えていた。

「統合してもまだできていないこととして」

今後すべきことを考えている

如何にして医師、診療科を確保するか！

○トップクラスの臨床診療病院

・がん診療の強化 ・全診療可能な救急医療など

○トップクラスの臨床教育病院

・初期研修医教育の向上

・救急を含め全診療可能な専攻医教育

・若手外科系医師の技術向上 など

○トップクラスの臨床研究病院

・全部門での学会発表の励行 ・学会発表の論文化 など

○体に優しい治療の充実

・最新の放射線治療器の導入・被爆の少ない放射線機器の導入

・血管内治療の強化、拡充・人間ドックで疾病の予防、早期発見を増進

○院外での医療活動の拡大

・在宅医療の展開 ・ドクターカー活動の拡充、ドクターヘリとの連携

強化 ・ICT を利用した遠隔診療の展開 ・近隣病院への医療者派遣

以上のような点を上げながらも、こうして地域医療を将来にわたり守る為に、行政界を超えた機能分担、統合・再編が避けて通れないと語られた。



・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1. 台東区では、古民家やの既存の建物・街並みを活かしたリノベーションが進められており、カフェやギャラリー、コワーキングスペースなどとして再生させる取り組みが見られた。長浜市においても、黒壁スクエアをはじめとする歴史的建造物をより多用途に活用し、新たな文化・観光資源としての価値を高めることが可能にできる。

何より台東区では、行政だけでなく、地元の企業やクリエイター、住民が協力しながら街の魅力を向上させている点が印象的であった。長浜市でも地元商店や伝統工芸職人と連携し、リノベーションを通じて新たなビジネスモデルを構築できるのはと考える。

また、増加する空き家を活用し、地域内外の事業者が参入しやすい仕組みを整えることで、持続的な地域活性化を図ることができる。そのためには、デジタル技術を活用し、デジタルマーケティングを強化し、市外の人々にも長浜市の魅力を積極的に発言していく取り組みが必要である。

今回の視察を通じて、長浜市にとって、歴史的資源の有効活用や地域住民との協働、空き家の活用など、多くの示唆をえることができた。これらの要素を参考にしつつ、長浜市独自の魅力を活かした持続可能なまちづくりをすすめて行きたいと思う。

2. 2040 年に向けた・新たな地域医療構想を厚労省から改めて説明を受けて、長浜市においても、急性期・回復期・慢性期医療の役割を明確にし、地域完結型の医療体制を早急に整備することが不可欠である。住み慣れた地域で最期まで生活できる体制の構築が重要となり、長浜市として、在宅医療の充実を図り、訪問診療や訪問介護の体制を強化することで、病院依存型の医療から地域密着型の医療へとシフトしていく必要があると思う。そこで、医療と介護が一体となった「地域包括ケアシステム」のさらなる充実を図り、多職種連携を推進していくことを求めている。

3. 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センターを視察して、異なる自治体間での病院統合の実態や運営の仕組みについて学ぶ機会を得ました。

長浜市においても周辺自治体との連携強化が求められると強く感じました。彦根市や米原市といった近隣自治体との協力により、地域医療の充実を図ることは有力な選択肢の一つとして考えられます。

既に長浜市と米原市は「長浜米原地域医療支援センター」を通じて在宅医療・介護連携推進事業を共同で行い、医療都会語の連携体制構築に取り組んでいる。

さらに、湖北医師会には長浜市と米原市の医師が所属し、地域の医療・介護関連事業に携わっています。今後、病院統合する上でさらに近隣地域の協力をどのように求めていくかが課題となり、しっかり取り組んでいきたいと思います。

そして何より、長浜市はがん拠点病院としても高度な医療設備と専門医を有しており、これは市にとって大きな財産である。この強みを活かし、市内外への発信力を強化するとともに、さらなる医療連携の可能性について検討すべきではないかと感じている。

また、長浜市は県内で最も広い面積をもっているため、住民の医療アクセスが課題でもある。交通アクセスの改善を進めることで住民の不安の軽減になり住民サービスとして重要であると考え、検討していく一つとして加えるべきと考えます。

最後に、これまでの視察先や今回の視察では、病院の運営方針や職員の雇用環境の変化に伴い、医療従事者や住民との合意形成に時間を要しているのが確認できた。

しかし、長浜市はどうだろう？と問いかけてこられる医療従事者や市民の声も聞こえてきそうです。病院を円滑に進めるためには、迅速な判断も必要であるが、それ以上に医療従事者や住民の声を十分に反映しながら進めることが重要であると思います。

合意形成を丁寧に行う事で、地域全体の理解と協力を得ながらより持続可能な医療体制を構築することが求められるのではないかと、今回の視察を通して私は強く感じています。